

森林工芸館の あれこれ

今月の「あれこれ」はオケクラフトの製作に欠かすことのできない「時松式木工ろくろ」について一般的に挽物（ひきもの）を製作する際に使用する木工機械「木工旋盤（せんばん）」となにが違うの？どんなことが特別？についてお伝えしていきます

またオケクラフトの作り手が自作する道具の中から材料を削る「バイト」仕上げをする「薄刃」削り作業を支える「うま」など道具に関するあれこれについてお伝えしていきます

no.19
10
2021

オケクラフトを ささえ 道具のあれこれ

さまざまなオケクラフトが生まれる背景には、「作るための道具」も一緒に生まれています。「オケクラフトを支える道具のあれこれ」を紹介します。

【木工旋盤】



NAKAJIMA TOOLS HP より画像借用
<https://woodturning.thebase.in/about/>

木工旋盤と木工ろくろ。それぞれの機械の作りや固定した木地を高速で回転させ刃物をあてて削る。という加工法など、2つの機械が持つ機能はほぼ同じといえます。では、どこに違いがあるのでしょうか。

ろくろは木地を片持ちするのに対し、旋盤は回軸の左右2点で固定し作業することができます。旋盤はこの2点を固定することで、ろくろでは難しい細く長い物を挽くのに適した機械といえます。また木地を固定するのに金具やチャックと呼ばれる保持具を使用します。基本的に旋盤では細く長い机の脚や彫込みの深いカップ類が、ろくろでは挽や皿など直径が大きく彫込みの浅いものが作業に適しているとされます。

旋盤とろくろの違いは上記のとおりですが、従来のろくろと「時松式」ではどこが違うのでしょうか。

【時松式木工ろくろ】



オケクラフトの作り手に限らず、時松辰夫氏から木工ろくろを教わった作り手の多くは、ほぼこの「時松式木工ろくろ」を使用しクラフトを製作しています。

この「時松式木工ろくろ」。名前のとおり、時松氏が従来の木工ろくろにおいて弱点とされる部分を改良し作られたものです。「時松式木工ろくろ」の特徴には、電動モーターを動力とする「真空吸着式」がひとつ挙げられます。従来、木地を固定するには「保持具」とよばれる部品が必要とされますが、真空吸着により木地を固定させる時松式では、保持具を用いた場合よりも、容易に木地の脱着ができるようになりました。また、足元につけられたペダルで回転の向きを変えることができるなど、作り手が作業しやすい構造となるよう工夫されています。

【バイト（=ろくろ鉋）】



ろくろ用の刃物は一般に市販されていることが少ないため、作り手はバイト（=ろくろ鉋）を自作します。素材に「ハイスピードスチール」を使用し、鍛造して刃の形状まで作り上げていきます。作り手の研修は塾生として入塾した後、最初に自身が使用する道具づくりから始まります。はじめは見よう見まねで、次第に自分が使いやすいように整えられるようになります。自分だけの道具となっていました。

【薄刃 - うすば（=仕上げ刃物）】



主にろくろ作業時の仕上げに使用される刃物で、鉄工用の金属切断用鋸を素材とします。硬度と弾性が高い素材であるため、ろくろ加工の仕上げ刃物に適しています。バイトと同様に薄刃も作り手の自作で、適度な長さに切り、先端部分を必要な刃物の形状に整え、研ぎながら使用します。製作するクラフトの形状は作り手ごとに異なることから薄刃もそれぞれ特徴のある形状となります。

【うま】



木工ろくろの道具の中でも、ひとくわ聞き慣れない名前の「うま」は、削り作業を支える道具です。バイトの棒や肘を「うま」にのせ固定させることで、ブレを防ぎ作業がしやすくなります。また、「うま」の先端部分を用いて材料の中心だしをするなど、ろくろ作業には欠かせない道具のひとつです。この「うま」も高さやバイトをのせる部分などに個人差が生まれるため、作り手が自作しています。